

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター セレン学園		
○保護者評価実施期間	2025年11月25日		～ 2025年12月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数) 30名
○従業者評価実施期間	2025年11月25日		～ 2025年12月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 18名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	計画に沿った一貫した支援が行われている。 多職種連携のもと、利用児の理解に努め、利用児とご家族のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されている。	児童発達支援計画(個別支援計画)の更新面談を通じてニーズを把握し、ご家庭の様子と園での様子を共有し、相互理解に努めております。また、具体的な支援方法についてわかりやすく説明しております。専門職の個別支援の他、日々の支援を専門職が観察し、担任が相談しやすい環境をつくることで個々に応じた専門的な支援を行っています。 活動プログラムの立案をチームで行い、プログラムが固定化しないよう工夫しています。	部屋や時間が限られている関係で、保護者が求める回数個別の療育を実施できていない現状がある。回数はお子さまの必要性に応じて行っているが、より手厚く行えるよう部屋や時間の調節を検討していく。
2	保護者とのコミュニケーションを大切にしている。	HUGを活用し、職員と保護者の情報伝達をこまめに行っております。また、積極的に面談や見学の機会を設けるようにしています。	さらに相談しやすい雰囲気づくりや信頼関係の構築を心掛けていきます。また、こちらから積極的に家庭での様子を聞くなどコミュニケーションの機会を増やしてまいります。
3	安全・防災への備えと、事故時対応の安心感。	非常災害に備えた定期訓練を毎月行っております。また、委員会を定期的に開催し、マニュアルの改訂を行っております。安心してご利用いただけるよう、園での感染状況に関する情報発信や事故発生時の速やかな連絡に努めております。	引き続き、安心してご利用いただけるよう定期訓練や環境整備、マニュアルの更新を行ってまいります。また、園での取り組みを保護者に発信することで安心感を持って利用していただけるよう努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とより交流の機会が少ない。	成長に合わせて様々な場面や人と関わる機会も一つの支援と考え、今年度からは地域のデイサービスと交流会を行うなど、交流の機会を増やしてはいるが、地域資源を活用しきれいていません。	地域の行事に参加させていただく等、積極的に地域とのつながりを作っていきたいと考えています。また、園庭開放等外部の子どもが参加できるような企画を行い、慣れた環境の中で地域の子どものと関われるような機会を考えていきたいと思っております。
2	個別ニーズに対して部屋の数が足りていない。	個別療育のための部屋が少ないと感じることがある。また、1クラス12人定員のため、活動や子どもたちの状況によっては狭く感じることがあります。	クラスではパーティションで区切る等工夫を行っている。また、使っていない部屋を活用することやホールや多目的室の活用など調節を行っている。 個別療育を行えるよう部屋の調節を行っていく。
3	家族支援プログラムと保護者・きょうだい支援の更なる充実。	現在、保育参加や座談会、行事の場を設け、ご家族同士の交流の機会を提供しております。他施設と比較すると頻度は多いものの、利用者はより多くの交流の機会を希望されています。	今後は更に家族支援に力を入れたいと考えております。具体的には、ご家族同士が気軽に交流できる場の増加、保護者向け勉強会の開催、きょうだい同士の交流の場の提供も検討してまいります。